

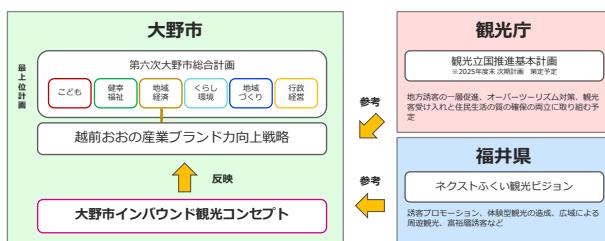
大野市インバウンド観光コンセプト【概要版】

1. コンセプトの目的・意義

- 人口減少が進む中、観光は交流人口の拡大と消費創出により、地域経済を支える重要な役割を担っています。
- 特に訪日外国人旅行者（以下、外国人旅行者）は、消費額が高く、地域経済への貢献が期待されています。
- 北陸新幹線や中部縦貫自動車道の整備といった交通環境の変化により、外国人旅行者の移動や周遊にも変化が生じています。
- 一方で、福井県および大野市への外国人旅行者の来訪は限定的です。また、事業者の受け入れ意欲も様々であるため、受け入れ体制を段階的に整備する必要があります。
- 来訪者数の増加を目指す前に、インバウンド観光に向き合う際に、地域として共有すべき参考となる考え方と方向性を「大野市インバウンド観光コンセプト」として示します。
- 本コンセプトは、中部縦貫自動車道など交通環境や社会環境の変化を踏まえ、適宜見直しを図ります。

2. コンセプトの位置づけ

- 大野市の最上位計画「第六次大野市総合計画」等を踏まえ、インバウンド観光の考え方や基本的な方向性を整理するものとして位置づけます。
- また、国および福井県の観光に関する基本的な考え方を参考にしつつ、大野市の実情や特性に即したインバウンド観光の受け入れの考え方を示します。
- 施策や数値目標を定める計画ではなく、行政、事業者などが判断する際の考え方の土台とします。



3. 現状分析

<国内・県内の状況>

- 定住人口1人分の年間消費135万円は、国内宿泊旅行者19人(69,362円/人)、日帰り旅行者69人(19,533円/人)、**外国人宿泊旅行者6人分**(226,851円/人)に相当します。
- コロナ禍後、全国的に外国人旅行者は回復しており、2024年は延べ宿泊者数が**1億6,400万人**と**過去最高**を記録しました。(図1)
- 県内も2024年は延べ宿泊者数が9万2,000人と回復傾向ですが、47都道府県のなかで**46番目**となっています。

(図1)



(図2)

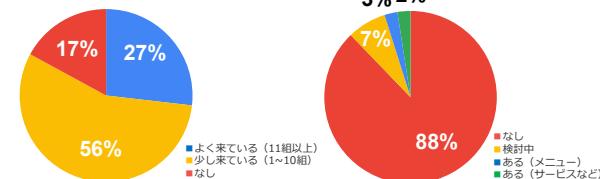


<来訪エリア>

- GPSによる人流データから、外国人旅行者の移動ルートを見ることができます。(図2)
- 北陸新幹線沿線エリアの色が濃くなっているほか、中京圏から郡上市・高山市に行くルートも色が濃くなっており、外国人旅行者の流れがあることが分かります。
- 福井市から大野市や、勝山市から大野市、郡上市から大野市を結ぶルートは色が薄くなっています。

<市内事業者アンケート結果> ※市内41事業所を対象

- 市内事業者向けのアンケート結果から、83%が外国人旅行者の来訪を経験しています。(図3)
- 外国人旅行者向けのメニューやサービスなどを導入している事業者はほとんどありません。(図4)
- 受け入れ意欲は積極的な意見が全体で49%ですが、業種ごとにみると「飲食」は58%、「小売・土産」は48%ですが、「宿泊」は34%となり、業種によって差が見られます。(図5)



<市内事業者によるワーキンググループ結果>

- インバウンド観光のあり方として、「滞在型の観光」や「心が落ち着く旅先」、「自然とともにある暮らしの豊かさ」、「ゆったりとした時間の流れ」の視点が共通の認識としてありました。

➔ 現状分析の詳細については「資料編①：現状分析・調査」を参照

4. 外国人旅行者の地域の特徴

- アジアは手軽な消費、欧米豪は自然や文化を重視する傾向があるなど、国や地域ごとに目的や行動に差が見られます。地域特性を踏まえ、対象に応じた受け入れや情報発信が必要です。

➔ 国別ごとの特徴については「資料編②：外国人旅行者の推移と特徴(国別)」を参照

5. 大野市の特性の整理

- 越前大野城を中心とした城下町で、恵まれた水環境に支えられた生活や食文化、周囲の山々や田園に囲まれた四季豊かな自然が、住民の生活を育み今も残されています。
- 事業者からは「滞在型の観光」を通じて体感できる、「ゆったりとした時間の流れ」「自然と共にある暮らしの豊かさ」「心が落ち着く旅先としての魅力」という点が、外国人旅行者にとって高い価値となり得るとの意見が示されています。

6. インバウンド観光の基本的な考え方・方向性

- 本市のインバウンド観光は、来訪者の増加のみを目的とせず、地域の暮らしや環境と調和しながら、訪れる人を丁寧に迎え入れていく、質の高い受け入れを重視します。
- 日常の営みや風景を最大の魅力と捉え、地域住民や事業者が無理なく関わり、来訪者と地域の双方が、満足感や幸せを共有できる関係性を大切することで、持続可能な受け入れを目指します。
- 前項「5. 大野市の特性」を踏まえ、本市では、短時間で消費される観光よりも、「**ゆったりと地域を体感する滞在型観光**」を基本とします。
- ただし、受け入れの形を一律に制限するものではなく、団体やツアーを含め地域や事業者の実情に応じ、段階的に体制を整えていくことを重視します。

7. インバウンド観光の受け入れに関する考え方と参考事例

インバウンド観光の受け入れに当たっての考え方と、参考となる事例を整理します。

(1) 来訪者が迷わず、不安なく旅をするための環境づくり (例：多言語化、キャッシュレスなど)

(2) 情報へのアクセスや、地域への理解を深めるための工夫 (例：WEBの基本的な情報の整備など)

(3) 地域性を大切にしたい外国人旅行者との関わり方 (例：地域を活かした体験、マナーやルールの伝達など)

8. オーバーツーリズムについて

- 観光客の集中による生活環境や自然への影響が全国で問題化しています。
- 現時点で大きな課題はないものの、将来の訪問増を見据え、混雑回避や資源保全などの視点を持ち、オーバーツーリズムを未然に防ぐことが重要です。